『禁・三国無双』　～孫呉編～

こんたそば

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
『禁・三国無双』　～孫呉編～

【Ｎコード】
Ｎ６４２２Ｙ

【作者名】
こんたそば

【あらすじ】
後輩が持って来たゲームをサークル仲間と共にクリアしようとスイッチを入れた俺は、自分自身が育ててきたキャラクターに憑依した上でゲームの世界に入り込んでしまった。
ヒロインの攻略方も、ストーリーの行方も分からないがやれることはやっていくしかない！
目指せ、ハッピーエンド！！できればヒロインと添い遂げたい！！

プロローグ

プロローグ

俺こと、北郷一刀はとある大学の３年生。

専攻は教育学部、趣味は歴史。戦国時代や三国志などのことが話題に上るとちょっと燃える。

１年生の時に『歴史研究同好会』というサークルを立ち上げて、日夜資料を読み新しい発見を模索して……いるようなことはない。趣味の合う友人や後輩と共に会話して盛り上がったり、戦国武将や三国志の英雄をモチーフとした漫画やゲームをして楽しい時を過ごしたりしている。

最近、特にはまっているのが後輩の篠塚健治が持って来た『禁・三国恋姫』というエロゲである。

ちなみに媒介はＤＣＰ（ドリーム・キャスト・ポータブル）という小型の携帯ゲーム機だ。ＤＣＰの魅力は無線ネットワークを使い複数の人間で同じゲームをプレイし攻略できること。

『禁・三国恋姫』というのは、一昨年辺りにパソコンゲームとして発売され、バグや修正を経てＤＣＰにおいて発売されることになったもので価格は新品で８８６０円と高額だが、購入者の反応は上々である。

ヒロインは全員可愛いし、そのヒロインたちと絡むシーンＣＧもかなりエロくて最高である。

ただ、そこまで行き着くのには長くて辛い過程がある訳で……。

・　まず、プレイヤーは自身の分身となるキャラクターを作成する。

・　その後、自身が所属する勢力を選ぶ。【蜀・魏・呉・袁・漢・南】の中からひとつ。

・　難易度は南蛮が『Ｖｅｒｙ　Ｅａｓｙ』、袁家が『Ｅａｓｙ』、劉蜀が『Ｎｏｒｍａｌ』、曹魏が『Ｈａｒｄ』、孫呉が『Ｖｅｒｙ　Ｈａｒｄ』、漢王朝が『Ｍａｎｉａｃ』となっている。

・　ネットにアップされるシーンＣＧは南蛮か、袁家、もしくは劉蜀の三つの勢力がほとんどで曹魏や孫呉はもとより、漢王朝のシーンＣＧがアップされるのは見たことが無い。つまり攻略者がいないわけだ。

・　ちなみにプレイヤーキャラクターがヒロインたちと接触できるようになるためには、キャラクターのレベルを上げて能力値を上げ、将軍又は軍師として登録される必要がある。つまり、周回プレイは必須。加えてひとつの勢力で使用できるのは１人のキャラクターのみ。しかも他の勢力では使用不可という鬼畜ぶり。

で、俺たち『歴史研究同好会』では話し合いの結果、難易度が『Ｖｅｒｙ　Ｈａｒｄ』の孫呉を攻略するべくキャラクターをエディットした。ちなみに名前を考えるのが面倒であった為、孫呉ルートのヒロインとして登場しない孫呉の武将の名前をつけることにした。俺の場合は、太史慈だ。真名は本名の一刀を使用。

・　そうそう、【真名】っていうのは『禁・三国恋姫』の世界観に

あるその人の個性や生き様を表す神聖な名前で、親兄弟や信頼の置ける仲間などにしか教えないものだそうだ。異性に真名を教えるっていうことは、そういう関係になったという合図らしい。

ちなみに一緒にプレイする人間をここで紹介しておく。

篠塚健治　後輩　使用キャラクター名：魯粛

笹本京一郎　先輩　使用キャラクター名：徐盛

及川肇　同級生　使用キャラクター名：韓当

といった感じだ。真名は俺と同じように本名の名前を使用している。

さっきも説明した通り、『禁・三国恋姫』というエロゲの真髄に辿り着くまでには最低でも2周はしないといけないということで、俺たちは1周目と2周目のイベントフラグを一切無視して、自分の分身たるキャラクターたちの育成に専念した。おかげで2回とも独立後の曹操軍との戦いで敗北しゲームオーバーとなった。

1周目の時は「まぁ、仕方がないさ。よし、次だ！」と思ったが…。

2周目の時は「王が不在って何だよ、これ！？緊急事態、王が戻るまで防衛をしてくれ……って、１０万の兵をたった４０００人でとか無理だろ！！はぁはぁ、王発見？よし、盛り返すぞ！って、曹操軍の刺客によって王が討たれた！？孫呉軍の士気がガタ落ちっ！？ふざけんなぁあああああ！！！！」ということで、４人で暴れた。

で、本命の3周目に至るわけだ。

「かずぴー、恨みっこなしやで」

「勿論だとも」

「ふふふ、楽しみだね」

「先輩方、こればっかりは譲りません！」

俺たちは色とりどりのＤＣＰを机の上に置き、向かい合っている。

「覚悟はいいな、お前ら」

俺の掛け声に頷く3人。

「いくぞ！最初はグー、じゃんけんぽん！」

俺…パー

健治…チョキ

笹本先輩…パー

及川…パー

「やったー！僕は本命の陸遜ちゃんでお願いします」

・　最後に言い忘れていたが、恋人になれるヒロインは1周につき1人と決まっている。ハーレムは不可能ということだ。ただ、無線ネットワークを繋げて一緒にプレイしている人間にはシーンＣＧが

送られて共有することができる。

結局、俺は負け越したのだが本命であった孫呉の王である孫策は皆選ばなかった。俺が彼女を選ぶといったら、皆に『お前、マジかよ』みたいな目で見られた。悪いかよ、コンチキショー。

で、４人揃ってＤＣＰのスイッチを入れたのだが……

気付けば、俺は鮮やかな紅い鎧を身に纏い荒野に立っていた。

「ここは…どこ？」

ステータス

名前：太史慈　字：子義　真名：一刀

武力：９１　知力：６８　統率：８１　素早さ：５９　政務：５５
　運気：６０

剣：Ｓ　槍：Ａ　弓：Ａ　戟：Ｂ　騎馬：Ｂ　兵器：Ｃ　水軍：Ｃ

兵士最大数１５００人

スキル『指揮Ｌｖ３』：部隊に所属する兵士の攻撃力が３０％上昇
　『援護防御Ｌｖ３』：近くの自軍部隊の防御力を５０％上昇
　『援護攻撃Ｌｖ３』：近くの自軍部隊の攻撃力を５０％上昇

一話

一話

『禁・三国恋姫』において、何故孫呉の難易度が『Ｖｅｒｙ　Ｈａｒｄ』かというと、物語の開始時点で袁術の客将という立場で存在していることにある。

おかげで、資金を稼いでも半分を没収される上に、兵士の集まり具合も悪い。

その上、将軍と軍師が異様に少ないため、政務パートで行動できる回数が極端に低いのだ。

他国と同様の政策を実施するようになるためにはいち早く独立する必要があるものの、孫呉の兵力は初期値で５０００人がいいとこである。袁術軍の１０万の兵力には逆立ちしても太刀打ちができない。

ゲームにおける孫呉編のシナリオでは、プレイヤーは前に士官していた所で無実の罪をきせられて放浪していたところを孫呉の宿将である黄蓋に拾われ、一兵士からやり直すということになっていた…はず。

こんなことになるのだったら、しっかりとシナリオの流れを確認しておくんだったと今更ながら後悔している。

ちなみにゲームを新しく始めた時点で将軍や軍師レベルに匹敵していると別シナリオが発生するらしいのだが……。

荒野でただ立っているだけでは物語は進まないだろうと考えた俺は、ひとまず人を見つけて最寄の街かなにかに行き情報を得ることにした。

その道中で自分のステータスを確認したが、とりあえず育ててきた『太史慈』だったのでひとまず安心した。ついでに言うと、いかにも重厚そうな鎧を身に纏って歩いているのに疲労感がほとんど得られない。能力に合わせて体力もチートらしい。

所持品を確認したら、武器が剣と槍と弓が一個ずつあった。そして、回復アイテムの肉まんが9個。アイテムも引継ぎだったのに、得られた資金を能力を上げるのに使ったり、スキルを得るのに使ってしまって、キャラクターの能力はずば抜けて高いのに、装備は貧弱なものになってしまっている。

なってしまっているものは仕方が無いと諦めて、俺は人影を探して歩き続けていたところ……

「誰かが近付いてくるな」

俺としてはありがたい。と、こちらに向かってくる大・中・小とメリハリのついた3人組を見て思った。話を聞くために俺は3人に向かって歩き出した。そして、俺は向かってきていた3人と対峙したのだが。

「あ、アニキ。俺たちよりも強そうですぜ」

「チビ、分かっている。すまねぇな、兄ちゃん。俺たちは急いでい

るから、何か聞きたいことがあるんなら後ろから来る姉ちゃんたちに聞いてくれ」

「そうなんだなぁ～」

「いや、最寄の街さえ教えてもらえばそれでいいんだ。って、おい！待ってくれ」

と、尋ねるも空しく軽くあしらわれて駆け足で去っていく3人を見送ることしか出来なかった俺は、深々と大きな溜め息をついた。

「もしかして、もう少しレベルが低かったら追い剥ぎとかのイベントが発生していたのか？でも、孫呉編でそんなイベントあったかな。うー……ん？」

地平線の向こうから“孫”の旗を翻し、砂煙を上げながら近付いてくる騎馬隊の姿があった。

ああ、なるほど。賊に襲われるというのが黄蓋に拾われるイベントに繋がるわけだな。

そして、敗北するか撃退するかで一兵士ルートか仕官ルートに分かれる訳か。ああ、納得。でも…

「なんで俺を取り囲んでいるんだ？」

俺はいつの間にか距離を詰めていた騎馬兵に取り囲まれていた。すると後ろの方から薄紫色の髪を持つ女性と銀色の髪を持つ女性が現れる。

「ごめんね、ちょっと聞きたいことがあるのよ。貴方、さっき男たち3人と会話していたよね？あいつらの仲間なの？」

「いや、道を聞いただけだ」

「そっか…じゃあ、ちょっとやりましょうか」

そう言って薄紫色の髪を持つ女性は見につけていた剣を抜いた。それに合わせて周囲にいた兵たちも各々武器を構える。後ろの方では銀色の髪の女性が大きく溜め息をついているのが見えた。

「ふふ、私の名前は孫伯符。訳ありで、ちょっと袁術ちゃんのところで客将をしている者よ」

「ご丁寧にどうも。俺は太史慈。やんごとなき理由で、前の仕官先から追い出され、放浪していたところだ」

表面上では凛々しい表情を作り対応しているが、心の中は『本命のヒロインキターーーー！！』とフィーバー状態だ。

しかし、俺はどうすればいいのだろうか。ある程度力を見せればいいのか？それとも勝てばいいのか？それとも……。

雪蓮サイド

母さまが死んで弱体化する一方だった私たちは袁術軍に容易く吸収され、私は蓮華やシャオたちと離れ離れになった。

ようやく体勢を立て直せたと思ったら、何をするにしても袁術軍の様子を見ながら行わないといけなくなり、私たちの行動の自由は奪われたと言ってもいい。

今回だって、街で盗難が相次ぎそれが賊の仕業だと分かった彼らは、私たちに「討伐してこい」と命令するだけで何の援助もしない。私が何かを要求すれば蓮華たちの名前を出して押し黙らせる。私たちを都合のいい駒として扱う。「覚えておきなさい」と内心舌打ちしながら私は外に出た。

人を使って賊たちの行方を調べ、尻尾を掴んだと思ったら郊外に逃亡したので馬を駆り追いかけてきたら、賊なんてどうでもいいって思えるくらいの人間に出会った。

そこにいたのは七尺七寸の大きな体格をした男。燃える焔のような鮮やかな紅い鎧を身に纏い、私と祭を含めた兵５０人に囲まれても表情を崩さず、むしろまっすぐ私を見据えてくるほどの胆力のある男だった。

そのとき、魂の底からと言っていいのか、自然と思ってしまった。

『欲しい』と。

何の疑問も躊躇もなくただ目の前にいる男を手元に置きたいと思ってしまった。

それと同時に私に流れる血が騒ぐ。

『闘いたい。力を競いたい』と。

その男は、自分の名前を『太史慈』と名乗った。

冥琳から控えるようにと言われていたけど我慢……できないっ！！

私は馬から飛び降りてすぐに距離を詰め太史慈に斬りかかった。

今まで幾多もの人間の首を刎ねてきた私の一撃を半歩下がることで避けた太史慈は、私の胸倉を掴み腕だけの力で祭がいるほうへ投げ飛ばした。

兵たちは私が攻撃したのを見て、彼を敵と判断し彼に襲い掛かるが正面から鎧が陥没したり、粉々に砕くような一撃を受けたりして次々と地面に転がっていく。

私が空中で体勢を整えて着地し、振り返った時私が見たものは最後の兵が彼の拳を腹に受け崩れ落ちる所だった。

「策殿、あれでは兵たちが可哀想じゃぞ」

「ははは、ごめんごめん。でも、これで祭も彼を欲しくなったでしょ」

「・・・・・・。そうじゃのう」

汗一つ流さず、息切れも起こさずに、私たちを見据えてくる太史慈。その彼が口を開く。

「試験は合格かな？江東の麒麟児さま」

私の考えは最初からお見通しだったようだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6422y/

『禁・三国無双』　～孫呉編～

2011年11月20日04時01分発行